

日本音楽集団

第十九回定期演奏会

ENSEMBLE NIPPONIA

19th Regular Concert '73

時||七月三日(火)午後七時
都市センターホール

〈曲目と出演者・解説〉

一、ね・とり

初演

〈開幕のためのセレモニー〉——三木 稔

NEFORI 〈Ceremony for Opening〉 Minoru MIKI

〔能管〕 風声晴由（尺八） 宮田耕八朗・坂田誠山（三絃） 杉浦弘和
〔琵琶〕 半田綾子・田原順子（二十絃等） 野坂恵子（十三絃等） 白根きぬ子・坂井とし子（十七絃） 宮本幸子〔打楽器〕 尾崎太一・堅田啓輝〔指揮〕 荒谷俊治

破格を重ねた十年の営みを経て、私たちには、もはや邦楽とか洋楽といった既定の想念から突出し、この時代のこの国に深く根ざした様式の確立が要請されていると思われる。歩みを止めた邦楽からの変身の介添役であった洋楽の影も、除々に拭い去りたい。そのようにして違する私たち一座のコンサートの理想像が私なりにあり、その第一着手が、この〈開幕のためのセレモニー〉と副題した「ね・とり」となった。もちろん、言葉の意味は雅楽の「音取」に依拠するものである。

冒頭は常に全体の雰囲気へのヘゲモニーを握る。ポスター・ちらしでは実行したが、そのようなものは本来無署名でありたいし、音楽自体も、いうならば「無為にして在る」ほどのものであった。いつしか始まり、きりげなく登場し、自然に音を取り、強いられることなく合わり、そして、遂次退っていく。それもまた、どこか伝統に負っている。

これは作るもの、演ずるもの、受取るもの、なべて会場にある人同志のコンセンサスを得るための時間にすぎない。音楽を想う必要はない。さらにいうならば、拍手なども無用ではなからうか、と考える。

三木 稔

二、鼓譟

KOSO for Percussions Takuo TAMURA

初演

〔打楽器〕 田村拓男・清水義矩・尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝

今までに何度か打楽器のための作品を聞いて、私もいつか私なりにまとめてみたいものだと思っていました。しかし、そこは本業でない者のつらさ……二月頃から五線譜を眺めては、一日々々が、たゞいたづらに過ぎて行くのみでした。

鼓譟とは、「木鼓を打鳴らし、ときの声をあげて騒ぐこと」(広辞苑)とあり、この小曲を書いた私の気持の中には、日本の伝統の精神世界に対する憧憬と背反、と、まるるところを知らない音の広がりへのアンチテーゼ、本来打楽器と云うものが本質的に持っている「人間が和して打つ」と云う行為への帰着、奏者の即興性の是認と規制と云ったもの等が交錯し、結果として短かい中に、数種混淆に落入ったかも知れません。

ともあれ、そこには五人の奏者が一体となって一音を打鳴らす行為があり、叫びがあります。そして何よりも光づ、音を楽しんで頂かなければなりません。これが今日における、私のいつわらざる鼓譟なのです。

田村拓男

三、交響的幻想曲 朱輪金鈴

Symphonic Fantase SHURIN-KINREI Katsutoshi NAGASAWA

長沢勝俊 演奏会初演

〔篠笛〕 望月太八（尺八） 宮田耕八朗・石井寛道・福田輝久・坂田誠山・三橋保源・関一郎
〔琵琶〕 山田美喜子（三絃） 野口美恵子・高野文子（第一等） 白根きぬ子・池上早苗・長沢宥子
〔第二等〕 坂井とし子・吉村七重・花房はるえ（十七絃） 宮本幸子・菊地麻美子〔打楽器〕 清水義矩
尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝・小幡享・杉浦弘和・半田綾子・田原順子〔指揮〕 荒谷俊治

朱輪とは装飾古墳にみられる同心円の輪(太陽を表しているといわれている)。

金鈴とは副葬品の中から発見された小さな金の鈴。数多く見た古墳の中から最も強く私にうったえかけてきたもの二つを選び「朱輪金鈴」と名づけました。この曲は古代人の夢を大らかに描いた幻想曲風な作品です。

しの笛一、尺八六、三絃二、琵琶一、等六、十七絃二、打楽器八、の計二十六名の奏者により演奏されます。

なお打楽器の中には、中国古代の石の楽器「磬」と、四国の高松近郊で採れる「サヌカイト」という石が使われます。「磬」の製作にあたっては京都大学人文科学研究所の林巳奈夫先生。彫刻家・野口鎮氏の数多くの御協力を頂きました。深く感謝しております。

一九七一年NHK委嘱作品。放送初演は同年一月二十七日。

長沢勝俊

休憩

〔篠笛・能管〕 望月太八（尺八） 宮田耕八朗・坂田誠山・三橋保源（三絃）
杉浦弘和・坂井とし子〔琵琶〕 山田美喜子（等） 白根きぬ子・野坂恵子
〔十七絃〕 宮本幸子〔打楽器〕 清水義矩・尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝
〔指揮〕 荒谷俊治

四、佐保の曲・竜田の曲——三木 稔

the Venus in Spring
the Venus in Autumn
Minoru MIKI

〔二十絃等独奏〕 野坂恵子

一九六九年の「天如」につぐ、二十絃等のための独奏曲で、一九七一年一月五日、日経ホールで行われた野坂恵子「等独奏曲の系譜」連続演奏会第二夜のために書かれ、初演された。

「天如」に比べ、それぞれが明快に完結した小世界を希み、春を掌どる女神である佐保姫、秋を司どる竜田姫という、古代日本の伝説における美しい呼び名と、めぐる春秋に寄せて書いた。

この等音の二つの形象は、もちろん、委嘱・初演者である野坂恵子という奏者像の二面として、私なりに刻み出したものであった。

昨年、日本ビクターより「佐保の曲・竜田の曲／野坂恵子等リサイタル」(VX—109)として録音、発売された。また、全音楽譜より近刊の予定である。なお、今回は竜田の曲・佐保の曲の順で演奏される。

三木 稔

五、夢十夜——広瀬量平

Ten Night's Dreams
Ryohai HIROSE

本年度委嘱作品初演

夏目漱石に夢十夜という作品がある。十の不思議な夢を綴ったものだけれど、ヨーロッパというものの本質をいやという程知った漱石が、かえって盲目的に近代化する日本の中で孤立していったというこの上で、この夢は只単に彼自身の心象風景ではない何かであると思う。今夜の私の作品はこれを音楽化したものではなく、全く私自身の夢十夜のもりであり、曲が十の部分に分れているわけでもない。この曲についてたどるといえば、肖像画であるよりは壁画の群像を、対話の劇であるよりは、交錯し同時進行する無数のドラマを、そしてそれらを呑み込んで流れる河、様々な歪や亀裂をも呑み込んで流れる河……を、このユニークな団体のために展開したと思った。一つの音あるいは一つの楽句は、それぞれ独立したドラマのもりであり、楽器たちが同じリズムで動くことはほとんどない。

広瀬量平

日本音楽集団団員連名

〈団員〉

望月太八 (篠笛・能管)
 宮田耕八朗 (尺八・横笛各種)
 坂田誠山 (尺八)
 杉浦弘和 (三絃)
 山田美喜子 (琵琶)
 半田綾子 (琵琶)
 坂井とし子 (箏・三絃)
 白根きぬ子 (箏)
 野坂恵子 (箏・三絃)
 宮本幸子 (十七絃)
 田村拓男 (指揮・打楽器)
 清水義矩 (打楽器)
 尾崎太一 (打楽器)
 藤倉成敏 (打楽器)
 高橋明邦 (打楽器)
 堅田啓輝 (打楽器)
 長沢勝俊 (作曲・集団代表)
 三木 稔 (作曲)

〈研究団員〉

風声晴由 (篠笛・能管)
 三橋保源 (尺八)
 石井寛道 (尺八)
 野口美恵子 (三絃)
 田原順子 (琵琶)
 吉村七重 (箏)
 池上早苗 (箏)
 菊地麻美子 (十七絃)
 霜島素子 (理論)
 関 一郎 (尺八)
 福田輝久 (尺八)
 高野文子 (三絃)
 花房はるえ (箏)
 長沢宥子 (箏・十七絃)
 小幡 亨 (打楽器)
 池田幹子 (理論)

〈団友〉

芝 祐靖・増田睦実・砂崎知子・芹沢英雄・鞍掛
 昭二・川崎祥悦・佐藤敏直・元橋康男・広瀬量平
 ・田中利光・仲俣申喜男

日本音楽集団事務局(土・日休み) 一五〇 東京都渋谷区神宮前六一六一一四
 小早川ビル2F TEL四〇九一五三七四

日本音楽集団今後の予定

※主として自主企画のもの

八月六日 第一回軽井沢アート・フェス

ティバル。集団の日のテーマは(野外の邦楽)、構成:三木稔。東京室内歌劇場・東京ゾリステン・現代音楽の会も参加し、(画期的なフェスティバルになる?)

八月七日〜十三日 第三回夏期合奏研究会。

北軽井沢ミュージック・ホール。案内書は受付に。(熱気と楽しさが一杯、音楽はこうして誕生する?)

十月五日 芸術祭主催公演として日本音楽

集団演奏会(第二〇回定期) 期。虎の門

十月六・七日 和歌山・相生公演。

ホール。伊福部昭・入野義朗氏の新曲と、長沢:三絃協奏曲(ディベロブメント改題)、それに荒川少年少女合唱隊も出演して三木:阿波の子タヌキ譚。(オーソドックスにコソドックス、感動と抱腹絶倒の交錯?)

十月二十三日 宮本幸子第二回十七絃リ

サイタル。日経ホール。(幸ちゃんに御声援を!)

十一月七日 音舞会作曲部会と共催で新

作七曲が生れる。研究団員を中心に出演。都市セ

客演者紹介

指揮 荒谷俊治

九州大学法学部と文学部卒業。在学中より指揮を石丸寛、作曲を高田三郎に師事。昭33年上京。昭43年東京フィルハーモニー交響楽団の指揮者に就任。44年文化庁在外芸術家研修員に選ばれ、故ジョージ・セルに師事。その後ヨロップパ諸オーケストラを指揮して帰国。

十一月二十六日〜二十七日 名古屋

福岡・熊本・広島・福山・松江・徳島・岡山・京都公演。

十二月六日 第二十一回定期。大阪厚生

年金中ホール。(第二回関西定期)。(しんどいけどやりまっせ!)

一九七四年一月 伝統音楽しりーずNo.三。

一九七四年三月 第二回新人演奏会。

一九七五年 第二次ヨロップパ公演。

(七四年はとももちらの準備が間に合わないのて延ばしてもらいました。)

第一九回定期演奏会スタッフ
 企画・製作 三木 稔・霜島素子
 グラフィック・及部克人

<日本音楽集団のレコード>

レコード・タイトル	収録曲名	作曲者	演奏者	レコード会社名	レコード番号	発売年	定価
現代日本の音楽<3>	古代舞曲による バラフレーズ 尺八三重奏曲	三木 稔 清瀬保二	日本音楽集団 指揮：横山千秋	日本コロムビア	O S・10052	1969	2,000 (yen)
日本音楽集団による 三木 稔の音楽	序の曲 天如 ソネット 凸 はばたきの歌 孤響 箏 譚詩集 四群のための形象 古代舞曲による バラフレーズ くるだんど	三木 稔	日本音楽集団 指揮：秋山和慶 箏独奏：野坂恵子 尺八独奏：横山勝也 東京ゾリステン 日本合唱協会 東京放送合唱団	日本コロムビア	J X・21~4 〈全曲スコア付〉 〈1970年度芸術祭大賞受賞〉	1970	7,200
響／和楽器による 現代日本の音楽	組曲「人形風土記」 しがらみ第2 他	長沢勝俊 八村義夫	日本音楽集団 指揮：田村拓男 他	R C Aビクター	J R Z・2505~8	1970	8,000
日本美の響き／ 和楽器による 日本旋律集	木曽節 他 14曲	編曲：長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	Y S・10097	1971	1,900
日本音楽集団による 日本の民謡	小諸馬子唄 他 14曲	編曲：小川寛興 若松正司	日本音楽集団 指揮：田村拓男	キング	S K K・673	1971	1,500
日本の楽器	日本の各楽器の代表的 古典曲・現代曲の 一部又は全部を収録	監修：長沢勝俊 三木 稔 解説：長広比登志 霜島素子	日本音楽集団 他 ナレーション： 立川澄登	R C Aビクター	J R Z・2520~1	1972	4,000
人形風土記／ 子供のための組曲	組曲「人形風土記」 子供のための組曲	長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村拓男 横山千秋	R C Aビクター	J R Z・2523	1972	2,000
日本の楽器入門	第一面・箏のなかま 第二面・尺八のなかま 第三面・三味線のなかま 第四面・太鼓のなかま 代表曲豊富	監修・解説： 三木 稔 台詞：秋浜悟史 話し：伊藤惣一	作・構成・演奏・ 野坂恵子 宮田耕八朗 杉浦弘和 清水義矩 川崎祥悦 日本音楽集団	日本コロムビア	E L S・3342 ~3	1972	3,000
古典↔現代／ 日本音楽集団の世界	第一面： 古典各楽器の 代表曲8曲 第二面：凸 (カデンツァ入り)	三木 稔	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	O S・10127	1972	2,000
佐保の曲・竜田の曲／ 野坂恵子箏リサイ タル	佐保の曲・竜田の曲 六段の調 箏 譚詩集 みだれ	三木 稔 八橋検校 三木 稔 八橋検校	野坂恵子	日本ビクター	V X・109	1972	2,000
日本美の響き／ 和楽器による日本 旋律集 第2集	からたちの花 他	編曲：長沢勝俊 山野狩人	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	Y S・10120	1972	1,900
阿波の子タヌキ譚	阿波の子タヌキ譚 三つの阿波のわらべ 歌 子供の四季	三木 稔 三木 稔 長沢勝俊	日本音楽集団 徳島少年少女合唱団 指揮：田村拓男 バリトン：中村義春	日本コロムビア	Y S・10141	1973	1,900
日本美の響き／ 和楽器による日本 旋律集 第3集	わらべ唄・童謡 を中心に	編曲：長沢勝俊 若松正司	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	未定 (8月頃発売)	1973	1,900
長沢勝俊作品集	二つの舞曲 箏四重奏曲 詩曲・萌春	長沢勝俊	日本音楽集団	R C Aビクター	未定		

※レコード店で上記レコードが入手困難なとき、日本音楽集団事務所に、お問い合わせ下さい。

演奏会を充実させる

現代邦楽ライブラリー

現代邦楽ライブラリー①——500円

三木 稔

四群のための形象

1. 文様/2. 居機/3. 曲/4. 掬

現代邦楽ライブラリー②——300円

三木 稔

箏 譚詩集

現代邦楽ライブラリー③——300円

諸井 誠

対話五題

二本の尺八のために

現代邦楽ライブラリー④——300円

助川敏弥

邦楽器のための

形象

現代邦楽ライブラリー⑤——500円

間宮芳生

四面の箏のための音楽

三面の箏のための音楽

現代邦楽ライブラリー⑥——500円

小山清茂

和楽器のための

四重奏曲第2番「主題と変奏」

和楽器のための

三重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑦——300円

長沢勝俊

尺八・箏による

萌春

現代邦楽ライブラリー⑧——400円

長沢勝俊

箏四重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑨——300円

清瀬保二

尺八三重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑩——500円

湯山 昭

三面の箏によるカプリース



近刊

三木 稔

独奏尺八のための孤響

三本の尺八のためのソネット

●

近刊

三木 稔

天如

佐保の曲

竜田の曲

●

近刊

間宮芳生

尺八のためのプレリュード第1番

尺八のためのプレリュード第2番

お求めは有名楽器店・デパートどうぞ



全音楽譜出版社 東京都新宿区東五軒町25 丁162 電話(03)269-0121(代)